

ボジョレーワイン委員会 プレスリリース
[BEAUJOLAIS] - ぶどうの成熟レポート
9月9日(月) : ボジョレーぶどう収穫の始まり



© Etienne Ramousse / Inter Beaujolais

9月9日より、15,000～20,000人の規模によるぶどうの収穫が始まりました。現在も手摘みで収穫を行っているのはボジョレーとシャンパーニュのみです。リヨンとマコンの間に広がる15,000ヘクタールのぶどう畑で南から北へと移動しながら行われています。約1か月の間熱狂的な収穫は続き、ガメイとシャルドネがボジョレー、ボジョレーヴィラージュ、その他のクリュへと醸造されます。

気候については、8月後半から9月の初めは好天に恵まれ、気温も高く乾燥していたため、ぶどうの成熟が一気に早まりました。9月2日の時点で収穫された180区画(ガメイとシャルドネ)のデータによると、ボジョレー地方で最も生育が遅い地域でもぶどうの成熟がかなり進んでいました。

収穫量については、少なくなる見込みです。過去5年間の平均と比べて、ガメイが25%減、シャルドネは35%減。また1/3のアペラシオンボジョレーは8月18日の雹によって1500ヘクタール中20～50%が被害を受けました。さらに7月初めの雹と春先の凍てつく霜は、南エリアのシャルドネと北エリアの一部に影響をもたらした。南と北、平地と丘陵地帯では収穫量のばらつきが予想されます。それでもその後の晴天のおかげでぶどうはしっかりと成熟する見通しだ。9月9日から収穫が始まりましたが、ぶどうの成熟度、標高、畑の向き、独自の哲学により、収穫のタイミングは各生産者に委ねられています。

2019年ヴィンテージは有望だと予想されてはいるものの、フランス全土の生産者にとって難しい年でした。彼らがこれからやらなければならないことは、テクニックを存分に活かし、ぶどうを今までにない特別なものにする事です。

* ボジョレーワインとは

ボジョレーのぶどう畑は15,000ヘクタールの面積を誇り、約3000人がワイン造りに携わり、9つのワイン共同組合醸造所と197のネゴシアンにより支えられています。12のアペラシオンからなるボジョレーワインは以下により構成されています。100%赤ワインを扱うブルイイ、シエナ、シルーブル、コートドブルイイ、フルーリー、ジュリエナ、モルゴン、ムーランナヴァン、レニエ、サンタムール。赤、白、ロゼ、新酒を扱うボジョレー、ボジョレーヴィラージュ。

このリリースについてのお問い合わせ : ボジョレーワイン委員会 日本事務局

Tel. 03-5615-8177 mail : beaujolais@audacejapan.com

Suivez les vins du Beaujolais

www.beaujolais.com

